



羅針盤

Market Forecasts by Y. san -5月-

4月予測の自己評価 鉄スクラップ:○ 銅:○ アルミ:○

鉄スクラップ

鉄スクラップ価格の指標となる東京製鉄宇都宮工場の4月の特級価格は53,000円/トンでスタート。4回にわたり1,000円/トンずつ下がりが最終的には49,000円/トン。5月は、アジア向けの鉄スクラップの輸出の低迷からみてさらに下がるでしょう。

銅

4月のLMEは8,980ドル/トン台、国内銅建値1,250,000円/トンでスタート。円高、米国景気不安により5日には国内銅建値が50,000円/トン下げて1,200,000円/トン。中旬不安定な状況が続き最終的には1,220,000円/トン、LME8,590ドル/トン台。3か月半ぶりの安値を記録。5月に関しては、中国の需要回復の見込みがないため下がると思われます。

アルミ

4月はLME2,400ドル/トン台でスタート。最終的には2,350ドル/トン台。5月は自動車の生産が底離れの兆しが出ているため上がると思われます。

産業廃棄物

産廃に関しては、収集運搬業者、中間処理業者ともに値上げを検討しているが、周りを見て時期を決めようとしている様子。営業としては客離れ怖いところ。これからは、今以上に現場と営業が一体となったサービス向上を目指すことが、大切になると思います。

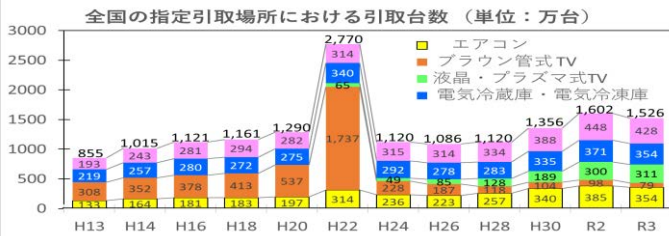
Topics

家電リサイクル実施状況

今年4月2 1日に公表された、令和3年度の家電リサイクル法に基づくリサイクル実施状況について、環境書及び経済産業省の公表資料からご紹介いたします。

製造業者等による引取台数の推移

家電リサイクル法が施行された平成13年度から令和3年度までの引き取り台数の推移を、隔年度ではありますが次のグラフで示します。令和3年度に製造業者等が指定引取場所です引き取った台数は、約1,526万台(令和2年度に比べ4.7%減)。前年度の1,602万台を下回ったものの、引き続き高い水準を維持しております。

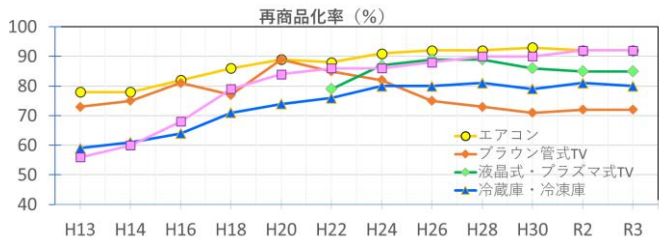


平成21年から液晶・プラズマ式TV及び衣類乾燥機が対象機器に追加されております。

平成22年度にブラウン管TVの引き取り台数が驚異的に増えたのは、地上デジタル放送への移行と、平成21年5月15日～平成23年3月31日に購入された家電エコポイントが発行された効果で増えております。

製造業者等における再商品化率の推移

製造業者等には、品目別に定められた再商品化基準の達成が義務付けられております。※再商品化率(%)=再商品化重量÷再商品化等処理重量
令和3年度、品目別の再商品化率は、エアコンで92%、ブラウン管式テレビで72%、液晶式・プラズマ式テレビで85%、冷蔵庫・冷凍庫で80%、洗濯機・衣類乾燥機で92%となっており、いずれも、継続的に法定の再商品化基準を上回る実績をあげております。



家電リサイクル法は平成13年(2001年)に施行されてから20年を過ぎました。この間の詳細なデータは(一財)家電製品協会のホームページから閲覧できますのでご参照ください。 <https://www.aeha.or.jp/>

出典及び加工した資料:環境省ウェブサイト

「令和3年度における家電リサイクル法に基づくリサイクルの実施状況等について」
<https://www.env.go.jp/content/000128191.pdf>

編集メモ

*今号のトピックスでは家電リサイクルの実施状況をお知らせしました。法の施行から20年以上が経ち、指定家電はリサイクル率の優等生ですが、この先はリサイクル活用だけでなく、更に有効な資源活用方法が開発されるのではと期待できるのでは。

*GWが始まり、制限なしの行動が出来ることで外国からの観光客も含め各地は大賑わいになりそうです。8日からはコロナの対応が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられますので、コロナ要注意はまだ暫く必要でしょう。子どもの日、母の日と記念日も続きますから遠出は避けて、菖蒲湯(邪気を払う)に入り、柏餅(系が続くと言われる)を食べて、お母様を労わる休日にするのも良いのではないのでしょうか

Series

きつかったけど最高の3年間 Part 1

営業部 高見澤 一輝

千葉工場 集荷営業の高見澤です。前は父と野球の話をしたので2回連続になってしまうのですが、今回は高校野球をやっていた頃の思い出をお話しましょう。

私は高校で親元を離れ、東京都あきる野市にある「東海大 菅生高校」に入学しました。両親との生活が嫌いで寮生活を選択しましたが、2日後後悔しました。掃除や洗濯など家事全般の大変さを実感し、今までは両親に支えられて生きてきたのだと気が付きました。

最もきつかったのは、食事トレーニングと、先輩と同居なことでした。食事は朝2杯、昼弁当、夜4杯が最低ノルマでした。当時の私は食が細かったのでなかなか完食することが出来ず、水で流したり、強制的に胃袋に入れたりしていました。月日が経つと食事にも慣れ間食できるようになりましたが、今でもその食欲はあまり変わっていないので、かなり太ってしまいました(笑) 部屋の構成は4人1部屋で2年生が1人3年生が2人でした。私はかなり朝が弱く目覚ましを大きい音でかけていたのですが、先輩に指摘され、爆睡しないように壁に寄りかかりながら寝ていました。部屋のみならず洗濯機も先輩と共同でしたので、先輩が使用する時間帯は使えず、毎日6時起床時刻前の4時半に起き洗濯してしまっていました。GWまでの平日の練習は殆どボールにも触れず、ひたすらランニングと筋トレの基礎体力向上トレーニングをしていました。携帯電話は夜11時に回収されますが、その前に両親に「野球部をやめたい」と毎日送ろうとしましたが野球部を続ける勇気よりやめる勇気の方がなかったです。

月日は流れて自分たちの代になりました。まず最初に秋の東京都大会を制し春の選抜甲子園に行くことが目標になりました。東京都の夏は西と東に分かれるのですが秋だけは合同になり、頂点を競い合います。結果は準々決勝で東の強豪二松学舎大学付属高校に敗れ甲子園行きは遠のきました。秋の大会が終わったら始まるのが・・・地獄の冬練習です。ボールに触れるのはキャッチボールとボール回し、ゴロ補給のみでロングティーや連ティーなどのバッティング練習などもありますが基本はランニングメニューと筋トレです。平日は合計距離が10kmになるように組まれたダッシュメニューに、筋トレやサーキット、綱登り等があり、土日は時間があるので平日の倍はやっていました。修学旅行(沖縄)に行った際も、朝練でダッシュとバットを持参して素振りしました。中でも最強にきつかったのは年末前の冬合宿です。こどもボールに触れず早朝5時半～19時まで走ったり筋トレが続くので大体3～4倍ほどやっていました。部員の大半が足のどこかを疲労骨折していました。私も左足の甲がバンバンに張れ象の足のようになっていました。病院に行くけどドクターストップがかかるので行かず痛い足を我慢して走っていました(笑) またかなりバットも振り込むので手の豆がつぶれ血だらけになり、お風呂の際石鹸がかなり滲みるため手拳基部(手首らへん)で頭を洗っていました。まだ最後の夏大会のことなどが思い出にあります。次回お話しさせてください。



大会スナップ:打者は筆者